

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.43

2017.12

乳がん手術時には



病理医は
乳がん手術の
縁の下の力持ち



病理検査医も活躍しています

乳がんに対して適切な治療を行うためには、病理医の協力が必要不可欠です。病理医は、手術前の病理組織を用いた乳がんの診断や、手術後の摘出標本を用いた病理検査を通して乳がんの治療にたずさわっていますが、乳がんの手術中にも、乳腺外科医の協力者として重要な役割を担っています。



術中迅速病理診断をご存知ですか？

術中迅速病理診断（迅速診断）とは、手術中に採取された臓器の一部分を顕微鏡で観察して「診断」することです。乳がんの手術時には、病変が取りきれたか確認する「断端の診断」や、わきの下にあるリンパ節の摘出を決定する「センチネルリンパ節の診断」が行われ、その結果をもとに手術現場の医師が手術方針を決定しています。



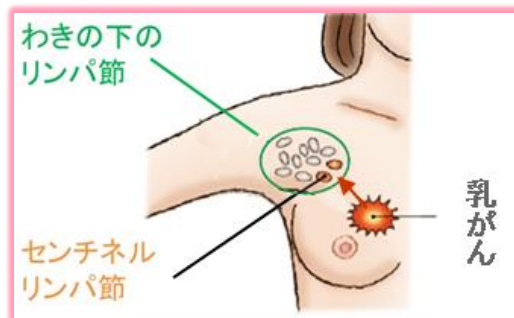
断端の診断とは？

断端とは、手術で切除した臓器の切り口を指します。乳がん手術のうち、乳房温存療法では、断端にがん細胞が残っていないければ、がんが取り除かれたと判断され、手術は終了します。



センチネルリンパ節の診断とは？

わきの下のリンパ節への転移の有無や個数は生存率の指標であり、治療方法の選択基準のひとつです。しかし転移が無い場合には全てのリンパ節を摘出する必要はありません。手術時には、がん細胞が最初に辿り着くリンパ節（センチネルリンパ節：平均2個程度）だけを最初に摘出し、迅速診断で、リンパ節内にがん細胞が確認された場合のみ、リンパ節全てを摘出する方法がとられています。



より良質の迅速診断を提供するための取り組み

迅速診断の結果は、その後の治療方針にも関与します。市立貝塚病院を含む多くの医療機関では、手術後に迅速診断の再評価を行い診断精度の向上に努めるなど、より正確な診断・良質の医療の提供を心がけています。

病理診断科 野田 百合

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

